

健康起因事故撲滅へ 全ト協とOCHIS連携

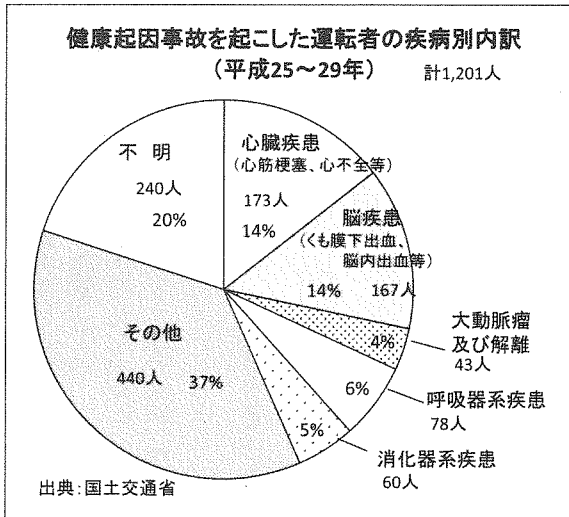
運輸ヘルスケアナビで 高リスク者の見える化 事後フォローをサポート

して低くない。運転者の急激な高齢化などを背景にした健康起因事故の防止には事業所内での健康管理がもっとも重要であり急務だ。

全日本トラック協会は、健康起因事故の撲滅に向けてNPO法人ヘルスケアネットワーク(OCHIS、理事長・武田裕大阪大名誉教授)と連携し、定期健康診断結果を踏まえた「ハイリスク者の見える化」から健康維持に資する「運輸ヘルスケアナビシステム」を構築し、運用している。

同システムは17年の実証は脳疾患、心臓・血管など健康起因事故の主な要因

トラック、バス、タクシーの運輸業界で健康起因事故がなくなるらない。2017年に自動車事故報告規則に基づいて国土交通省に報告のあった件数は、全国で298件。前年の304件に比べれば、健康起因事故に対する事業者の意識が高まり若干減少したものの、運転中に運転操作不能になったものが約3割あり、決



「ナビ&SAS対策セミナー」日程と主催協会

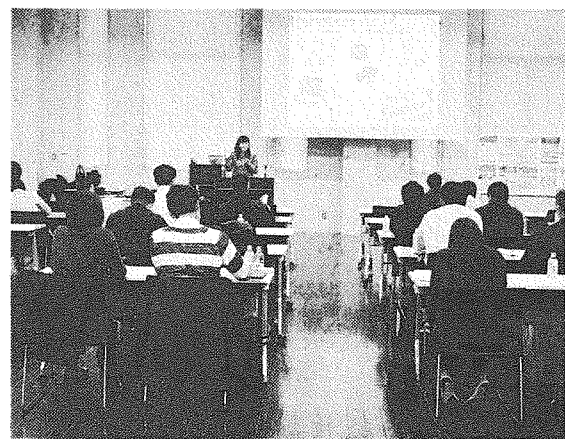
4月9日	青森県トラック協会	100人
4月16日	高知県トラック協会	50人
4月19日	釧根地区トラック協会	50人
4月25日	静岡県トラック協会	200人
5月10日	秋田県トラック協会	90人
5月17日	東京都トラック協会	150人
5月21日	沖縄県トラック協会	110人
5月24日	熊本県トラック協会	70人
5月28日	山形県トラック協会	100人
5月29日	栃木県トラック協会	100人
6月5日	香川県トラック協会	80人
6月7日	愛媛県トラック協会	200人
6月11日	宮城県トラック協会	200人
6月13日	大阪府トラック協会	100人
6月14日	奈良県トラック協会	100人
6月18日	群馬県トラック協会	100人
6月20日	岐阜県トラック協会	100人
6月25日	石川県トラック協会	200人
7月25日	岡山県トラック協会	120人

(青森、高知は終了)

全国で対策セミナー開催

手不足、煩雑な健診データ処理などがネックとなつて

診断結果のフォローによる事故対策が困難というのが



今年1月から3月にかけて全国で運輸ヘルスケアナビシステムの活用とSAS対策についてのセミナーを開催し、多くの事業者が関心を寄せた

I、総コレステロール、血糖値など健診データを分析した結果、肥満や高血圧、脂質、高血糖などいわゆる「死の四重奏」が健康起因事故との関連性を懸念された。このデータは会社全体で運転者の健康について共通認識を持つため事業者にCD-ROMで返送し、今後の管理アドバイスを行ってきた。

今後OCHISでは、同システム活用の充実と迅速なデータ化を図るため、健診結果データの提出にエクセルデータを要請する一方、同システムの利用に対しては無料で同システムの運用に関する「定期サポート」を行う。また「SAS&ナビお悩々相談会」、会議や研修会に講師派遣、健康相談や保健指導での個別支援のために保健師対応も行う。

同システムの利用料は全ト協の補助事業となり、1人2千円のうち半額が全ト協負担となる。OCHISでは、健康起因事故の防止に向けて7500人の利用を目指している。

17年の同システムの実証実験では、全国の30社2179人を対象とした健診結果データをOCHISに提出し、SAS判定からBM

運輸ヘルスケアナビシステム、同対策セミナーの問い合わせはOCHIS、06(6965)3666。